

バイオセラピー学科

1. 教育研究上の目的

本学科は、人と動植物とのかかわり、すなわち動植物との共生、動植物の活用による生活の質の向上、動植物を介しての癒し、さらに動植物を介在させた療法にまで及ぶ学際的領域に関する教育と研究並びに実践を行い、国内外においてこれらの領域で活躍できる意欲と能力を持った人材を養成する。

2. 教育目標

バイオセラピー学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 農学を基礎とした動植物に関する知識を有する者
- (2) 農学的見地から動植物の有用性を見出し、社会・環境への利活用を考える能力を有する者
- (3) 人の健康・福祉を考え、心豊かな社会の実現に資する能力を有する者

3. ディプロマ・ポリシー

バイオセラピー学科は、生き物、環境、人に関する農学的知識基盤を修得した上で、動植物との共生を目指した環境、動植物の活用による生活の質向上、動植物から得られる癒し、動植物を介在させた療法にまで及ぶこれまでの農学の領域を超えた教育と研究ならびに実践を通して、国内外において新たな領域で活躍できる意欲と能力を持った人材育成のため、以下の要件を満たし、より良い社会を創造できる能力を備えた学生に学位を授与します。

- (1) 人と動植物とのかかわりについて学び、動植物の有用性や社会・環境への利活用について考えることで、心豊かな社会の実現を目指すバイオセラピー学を理解し、展開・応用する上で、必要な農学の知識や技術を身につけている。
- (2) 人に対する配慮と対応について高い倫理性を持って、自律的かつ協働して行動する能力を修得している。
- (3) 植物共生学、野生動物学、人間植物関係学、伴侶動物学、植物介在療法学、動物介在療法学など、生き物、環境、人に関する専門知識や技術を修得し、それらを実践的に活用して福祉向上と持続的な環境作りのために積極的に活動することができる。
- (4) 多様な生き物が生存できる環境を守り、動植物の利活用により生活の質を向上し、豊かでより良い社会を創造できる能力を有している。
- (5) 生き物、環境、人の関係性について考究し、多様な考えを汲み取りながら、自分の考えを論理的に展開し、伝えるコミュニケーション能力を修得している。

4. カリキュラム・ポリシー

バイオセラピー学科は、生き物・環境・人およびそれらの関係性について考え、動植物との共生およびその利活用の技法を見出すことで、心豊かな社会の実現に資する福祉農学分野の教育実践のため、植物、動物、人から環境にわたる分野に関する座学、実験、実習、演習科目を配当し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下のことに配慮しながら教育課程を編成します。

- (1) 基礎知識の修得とバイオセラピー学に係る実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「専門教育科目」の2つの科目区分により授業科目を配当する。
- (2) 「総合教育科目」には、「導入科目」、「就職準備科目」などの大学での学修方法等を取得する科目や、専門教育の動機づけとなる「課題別科目」、国内外で活躍できるよう「英語科目」および「初修外国語関係科目」を配当する。
- (3) 「専門教育科目」には、「農学原論」などの農学の知識基盤を修得するための「学部専門科目」、人間・社会・自然に関する幅広い教養を身につけるための「学科基礎科目」、バイオセラピー学の基礎から専門的な知識を修得するための「学科専門科目」を配当する。
- (4) 「学科専門科目」には、「バイオセラピー概論」などのバイオセラピー学の体系的な知識を修得するための科目からなる「専門基礎科目」、「社会園芸学」、「生物介在療法評価法」などの社会における生き物・環境・人とそれらの関係性に関する専門的な知識、技術を修得するための「専門コア科目」、分野別実験・実習・演習などの学科を構成する研究室の専門領域に関する「総合化科目」を配当する。
- (5) 「総合化科目」に卒業論文を配当する。情報収集、他者との協力、バイオセラピー学の視点に基づいた課題の設定、研究計画立案、調査・実験の実施、結果の解析と考察、論文執筆および発表までを通して学科教育の集大成とする。

5. アドミッション・ポリシー

バイオセラピー学科は、生き物、環境、人に関する知識を修得し、それらの関係性について深く考えながら、動植物との共生およびその利活用を通して、心豊かな社会の実現に貢献する意欲を持った、次のような学生を求めています。

- (1) 高等学校までに得られる国語、英語などのコミュニケーションに役立つ基礎学力と必要な知識を修得している。
- (2) 高等学校までの生物学や化学などの学習により、生き物のからだの仕組みや働きに関する自然科学の基礎的な知識を持っている。
- (3) 生き物の存在を尊重し、倫理観を持って行動できる。
- (4) 人と動植物との関係性に興味を持ち、修得した知識を持って社会に貢献する意欲を持っている。
- (5) 人との対話を大切にし、自分の考えや意見を、誠意を持って説明できる。